

「2019 千葉県台風・豪雨災害支援基金」(第3次) 助成事業報告書

提出日 令和4年 3月 31日

団体名	非営利活動法人 災害ボランティア団体 らしんばん			
代表者	役職	理事長	氏名	平尾 恒義

助成事業名	災害復興支援とその活動スキルの向上、伝達を目的とする事業			
助成金額	200,000 円			
事業実施期間	令和3年 7月 1日 ~ 令和4年 2月 28日			

【1】事業概要

※申請書の「事業概要」を踏まえ、実際に実施した概要を記載ください(500字以内)。

2019年の台風15号による災害以降千葉県における復興支援活動を行って参りました。多くの一般被災者に対するニーズについてひと段落したように思いますが、以前としてニーズが点在しています。その取りこぼしが無いように支援しました。また昨年発生したいすみ市の水害についても復興支援を行いました。また各自のスキルアップを目的とした訓練を行うと同時に資格取得に向け取り組みました。

【2】実施内容

※実施内容(時期・対象者・何を・どのように)、数値的な実績(スタッフやボランティアの人数・参加者数・成果物の数量等)、連携した組織等について具体的に詳細をご記入ください。

千葉県内の復興支援活動を7月より継続して行いました。ボランティアセンターとしての活動は終了した富津市、昨年水害が発生したいすみ市での活動になりました。富津市では以前より継続して屋根の破損によるブルーシートの張替えを行いました。対象は台風により被災された方のうち、個々の事情により屋根の張替えができない方についての再張替えが主となりました。現地での活動はのべ4名の活動となりましたが、現地に直接いかなくてもできるアシスト瓦の作成や、屋根修繕に使用するパーツの作成を含めるとのべ14名程度の活動となりました。連携組織としては富津社会福祉協議会となります。

また昨年8月にはいすみ市において水害が発生しており、現場に当団体のみが支援に入る結果となりました。現地にはのべ7名が作業を行い、対象は水害エリア一体の被災者となりました。

当時は熱海市において土砂災害が発生しており、他のボランティア団体はそちらに動員されていたようで我々だけの活動となりました。連携した組織についてはいすみ市社会福祉協議会といすみ市クリーンセンターとなります。

復興支援活動以外の部分については、コロナウィルスによる蔓延防止措置などの影響もあり、思うように集まったり活動したりできない環境となりましたが、使用機材のメンテナンスや個々の技術が低下しない様に集まって作業を行うという活動を行いました。

同時にスキルアップの一環としてNPO 会計の資格取得にも取り組み、団体内で模擬問題を作成するなどおこなっていました。

また現地に行くことや力仕事だけが復興支援ボランティアではないという考えから、岡山県の支部によるアシスト瓦の作成を行いました。これは介護施設の利用者さんと職員でレクリエーションの一部として試験的に行いました。今後継続して行っていきたいと思っております。

【3】 成果（助成事業の自己評価）

※助成事業の目標（申請書に記載の「目指す状況」）の達成度について、以下 A～C のいずれかに印をつけ、そ

の理由について具体的にご記入ください。

達成度	<input type="checkbox"/> A. 想定以上の成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね実施計画とおりの成果が得られた <input type="radio"/> C. 思うような成果が得られなかった
理由	復興支援を主体にしている我々にとって、ニーズ（実際に伝わってくるニーズ）情報が思ったより少なかったことで思ったほど作業ができなかったという点がありました。 そして現在のコロナウィルスによる作業の難しさに対する認識が甘かったと思っております。

【4】事業の総括・振り返り

※助成事業全体を振り返り、課題の設定、事業計画に対する実際の活動結果、成果の達成具合を振り返り、どの点がよかったのか、もう少し工夫が必要だったのか、今後改善するとしたらどのような点があるか等の総括を記載ください（500字以内）。

<p>この度は3度目の助成をいただくことになり、誠にありがとうございました。この期間を振り返り今後改善していかななくてはならない点を多々発見することができました。一番今後の課題として、他の団体とのコミュニケーションの必要性を強く感じました。実際にニーズがあっても我々に正確な情報が回ってこないという点がありました。被災地ではボランティアに関するトラブルもあり、我々のように知名度の低い団体では受け入れを断られてしまう場合もありました。チラシ作成を当初の計画に盛り込んでおりましたが、前年度に千葉プロボノチャレンジで作成されたものを有効活用することに方針を変更したため別途コストをかけることなく印刷にかかった費用のみで募集ポスターを配布することができました。会員の教育について外部研修の受講を計画しましたが、コロナウィルスにより開催が大幅に減少したため受講することができませんでしたが、NPO 法人会計検定の合格者を1名追加することができました。このような対面活動が制限された状況下においていかに我々の存在意義を見出していくのか、考え直さないといけないと思う結果となりました。</p>

【5】今後の展望と次の活動予定

※助成で取り組んだ課題における今後の展望とそれに対する今後の活動予定

<p>今後も災害復興支援に取り組んでいきます。本拠地である千葉県はもとより、支部である岡山についても今後地道な活動を広げていこうと思います。現在は福島県で伐採、草刈りなどの帰宅困難解除地域のインフラ整備に参加していますが、先日の地震により、ブルーシート張りのニーズが出ているので、今後はそちらのサポートを考えております。</p>
--

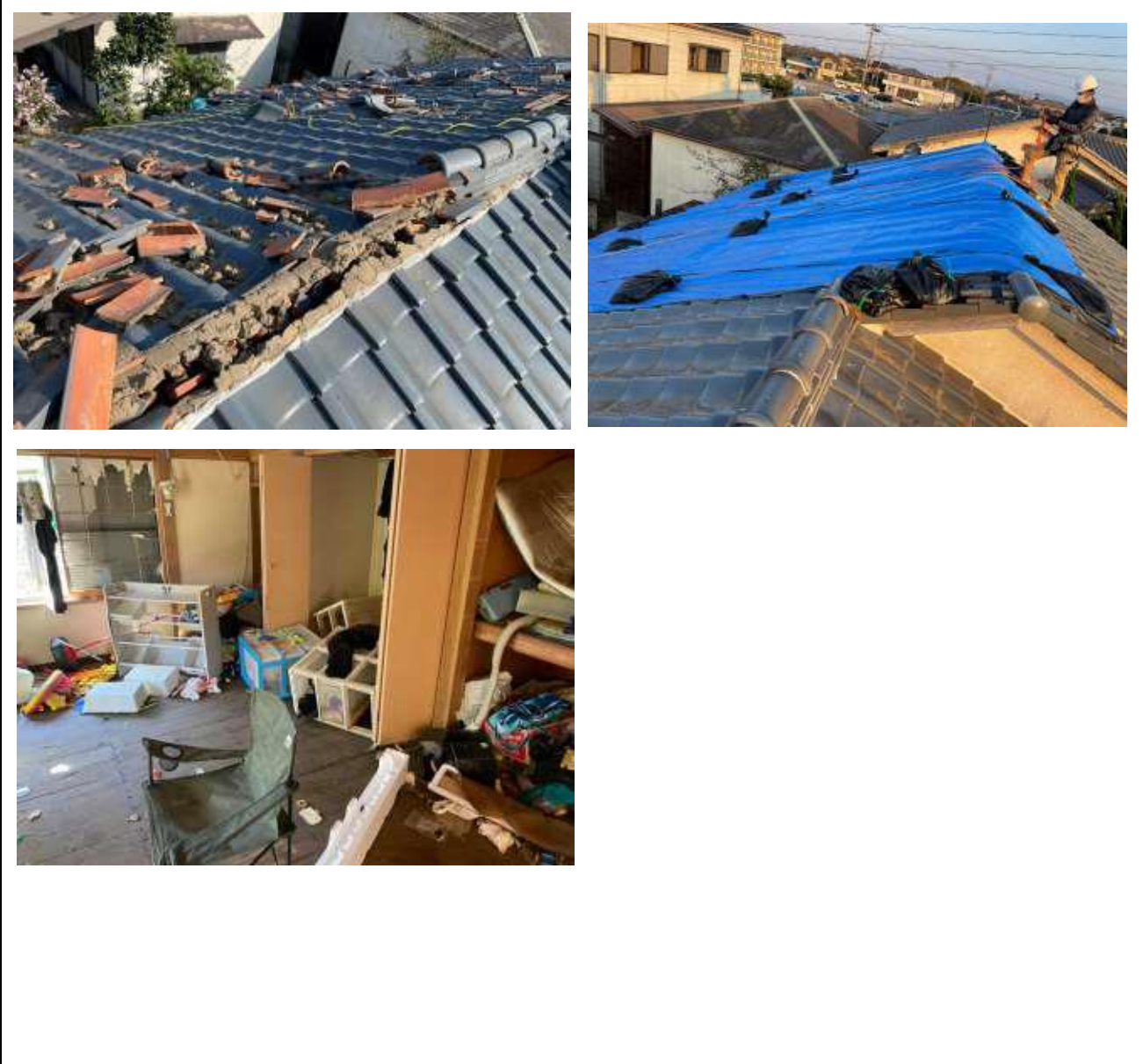
【6】広報実績

広報内容	内容
------	----

1. メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	日付、記事名、媒体、リンク先等 2021/8/9NHK18時のニュースにボランティアの人という形でわずかに紹介されました。
2. 広報制作物・報告書等、当該事業費を使って制作したもの	当該助成金を使って制作したもの（出版物、印刷物、映像等）について種類、発行・制作時期、概要リンク先、部数等 活動メンバー募集ちらし30部程度、9月（内容については前年の千葉プロボノチャレンジで制作したものの印刷。30部近隣に配布。

※成果物制作の場合5部提出

活動の様子がわかる写真を5～6枚程度を添付または別途データをお送りください。



【7】 寄付者へのメッセージ

※本助成金の原資は多くの個人や企業の寄付によるものです。ご支援くださった方々へのメッセージをお願い

します。

この度は寄付をいただき誠にありがとうございます。今年は千葉県において自然災害による被害が少なかったと思いますが、いすみ市などは2回発生、同じエリアが2度被災されました。我々は大きな団体ではないので、できることは限られていますが、皆様からの多大な支援により活動できております。我々は今後も支援を継続し、同時にボランティア活動参加への啓蒙、支援を行っていきたいと思っております。今後とも何卒よろしく申し上げます。この度は誠にありがとうございました。

【その他】本プログラムや当財団への要望などありましたら、自由に記入してください。

決算報告

収入

費目		金額(円)
2019 千葉県台風・豪雨災害支援基金助成金		200,000
その他		0
収入合計		200,000 円

支出

費目	算出根拠	金額(円)
備品	インパクトレンチ(領収書 No12)	39,600
備品	チェーンソー(領収書 No9)	34,980
消耗品	ブルーシートカット型(領収書 No10)	4,400
消耗品	プリンタインク(領収書 No8、11)	7,999
消耗品	ブルーシート、ネジ(領収書 No5、7)	4,165
備品	ノートパソコン(領収書 No4)	31,800
支出合計		122,944 円

※領収書の写しを添付してください。